

2019 年度 10 月入学
名古屋大学大学院人文学研究科
博士後期課程

学生募集要項

〔一般入試・社会人入試〕

【アドミッション・ポリシー】

人文学の研究を通して世界の諸課題に取り組む強い意欲を持ち、研究に必要とされる専門知識と言語能力を備えていて、研究対象を論理的、実証的に考察し、その成果を的確に論述できる能力をもつ人を選抜します。

名古屋大学大学院
人文学研究科

自然災害等により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

名古屋大学では、自然災害等による被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、本入試の検定料免除の特別措置を実施いたします。

なお、詳細は本学ホームページをご確認ください。

○本学ホームページ

URL <http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/applicant/report/index.html>

◆ 不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、下記ホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

○ 人文学研究科ホームページ

URL <http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/>

プログラム	コース	前期課程	後期課程
<p>◆言語文化系学位プログラム</p> <p>人間の文化の基盤である思想や倫理、そして言語や文学といった研究領域において、鋭い問題意識をもちながら、最先端の理論を駆使して、現代社会の課題に取り組み、グローバルに活躍できる研究者・高度専門職業人を育成します。</p>	<p>文芸言語学コース</p> <p>大学教員、高校教員など、研究職や教育職、高度専門職を担う人材を養成するため、人間の文化の普遍的基盤である様々な言語や各国の文学などに関して、自らテーマを発見し、その緻密な分析を通じて、現代社会の諸々の課題の解決に貢献できる力と、高い言語能力、異文化理解力を、地域及び国内外の学術交流の中で養います。</p> <p>分野・専門 言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、ドイツ語ドイツ文学、フランス語フランス文学、中国語中国文学、日本語教育学、英語教育学、応用日本語学</p> <p>哲学倫理学コース</p> <p>大学教員、高校教員など、研究職や教育職、高度専門職を担う人材を養成するため、人間の文化の普遍的基盤である東西の哲学・倫理、そして古典に関して、自らテーマを発見し、その緻密な分析を通じて、現代社会の諸々の課題の解決に貢献できる力と、高い言語能力、異文化理解力を、地域及び国内外の学術交流の中で養います。</p> <p>分野・専門 哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学</p>	○	○
<p>◆歴史文化系学位プログラム</p> <p>人間の文化と歴史をめぐる諸問題について、幅広い知識と最先端の方法論に基づき、史資料や作品の読解とフィールドワークを通じて、独自の視点から分析・解明する技能を身につけた、国際的に活躍できる研究者・教育者・高度専門職業人を育成します。</p>	<p>歴史学・人類学コース</p> <p>大学教員、高校教員、学芸員など、研究職や教育職、高度専門職を担う人材を養成するため、世界の諸地域における人間の歴史的・文化的な営みについて、文献史料・美術作品・物質資料、民族誌資料等の緻密な分析とフィールドワークに基づいて、自ら課題を発見し、オリジナルな視点からこれを解明する能力を、地域及び国内外の学術交流の中で養います。</p> <p>分野・専門 日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学</p> <p>総合文化学コース</p> <p>大学教員、高校教員など、研究職や教育職、高度専門職を担う人材を養成するため、映像、表象文化、移民・マイノリティ、ジェンダー、東アジアと日本の文化など学際的な問題について自ら課題を発見し、多角的なアプローチによる資料や対象の分析に基づいて、これを解明する能力を、地域及び国内外の学術交流の中で養います。</p> <p>分野・専門 映像学、日本文化学、文化動態学、ジェンダー学</p>	○	○
<p>◆英語高度専門職業人学位プログラム</p> <p>英語圏文化に精通し、英語に堪能であり、かつ、高度で専門的な知識と能力を備えた職業人、あるいは国際的視野に立って地域に貢献できる人材を育成します。</p>	<p>英語高度専門職業人コース</p> <p>英語に堪能で英語圏文化に精通した通訳・翻訳家や英語教員など、英語のスペシャリストの養成を目指します。一般学生のほか、在職のまま修学する社会人や中学・高校の英語教員なども受け入れます。</p>	○	
<p>◆多文化共生系学位プログラム</p> <p>国際的視野と異文化理解能力をもち、地域及び国際社会で多文化共生を推進するリーダーを育成します。</p>	<p>国際・地域共生促進コース</p> <p>国際社会や地域の中で、グローバル化現象と関連した多言語多文化状況が引き起こす諸課題を考察し、その解決を図ると同時に、異文化が触れ合うことで社会が活性化する方策を提言できるような、実践力を身につけたコーディネーターを養成します。</p>	○	

※G30 国際プログラム群 言語学・文化研究プログラムと「アジアの中の日本文化」プログラムの学生募集は、別途実施します。

1. 出願資格

一般入試

次の(1)～(6)のいずれかに該当する者

社会人入試

次の(1)～(6)のいずれかに該当し、大学院入学時までに通算2年間以上の社会経験（民間企業、官公庁、学校教育機関、自営業、家事、ボランティア活動などの経験。ただし、研究生および大学院学生としての期間は含みません。）を有する者

- (1) 本学大学院または他の大学院で修士の学位もしくは専門職学位を授与された者または2019年9月30日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位もしくは専門職学位に相当する学位を授与された者または2019年9月30日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位もしくは専門職学位に相当する学位を授与された者または2019年9月30日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位もしくは専門職学位に相当する学位を授与された者または2019年9月30日までに修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同以上の学力があると認められた者で、2019年9月30日までに24才に達する者

【注】(6)により出願しようとする者は、p.18を参照し、文系教務課内 人文学研究科入試担当あてに2019年5月21日（火）必着で必要書類を提出してください。

2. 専攻及び募集人員

専攻	プログラム	コース	分野・専門	募集人員
人文学 専攻	言語文化系学位 プログラム	文芸言語学 コース	言語学、日本語学、日本文学、 英語学、英米文学、 ドイツ語ドイツ文学、 フランス語フランス文学、 中国語中国文学、日本語教育学、 英語教育学、応用日本語学	若干名
		哲学倫理学 コース	哲学、西洋古典学、 中国哲学、インド哲学	
	歴史文化系学位 プログラム	歴史学・人類学 コース	日本史学、東洋史学、西洋史学、 美学美術史学、考古学、 文化人類学	
		総合文化学 コース	映像学、日本文化学、 文化動態学、ジェンダー学	

※上記募集人員には、一般入試及び社会人入試の募集人員を含みます。

※フランス語フランス文学は、フランス語フランス文学（第1）、フランス語フランス文学（第2）があり、別々に試験を行います。この分野・専門の詳細については、人文学研究科ホームページを参照してください。

3. 願書受付期間

2019年6月18日(火)から6月21日(金)までとします。

持参の場合	受付時間は午前9時から正午まで、午後1時から午後4時までとします。
郵送の場合	封筒の表に「大学院人文学研究科博士後期課程入試出願書類在中」と朱書きして、必ず書留郵便とし、期間内〔6月21日(金)午後4時まで〕に到着するよう送付してください。期間後到着分は受理しませんので注意してください。また、出願受付期間に提出された4. 出願書類等に不備がある場合、受理しません。

【注】メールでの出願はできません。

出願書類の提出先(郵送先)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町B4-4(700)

名古屋大学 文系教務課内 人文学研究科入試担当

4. 出願書類等

入学志願票等の所定用紙は、人文学研究科ウェブサイトからダウンロードし、A4判用紙に片面印刷のうえ記入してください。

(<http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/examination/examination-sub4/>)

所定用紙を印刷できない場合は、文系教務課内 人文学研究科入試担当までご相談ください。

(1) 入学志願票、履歴書、受験票、写真票、領収証書・領収証書(控)

所定の様式をA4判用紙に片面印刷し、提出してください。

(2) 志望理由書

A4判横書1枚で提出してください。名古屋大学人文学研究科、文学研究科、国際言語文化研究科及び国際開発研究科国際コミュニケーション専攻の博士前期課程(修士課程)修了者または修了見込者は不要です。

(3) 修士学位取得(見込)証明書

- ・証明書は必ず原本を提出してください。コピーは受付しません。(証明書の原本を提出できない場合は、発行元または公的機関で原本と相違ないことを証明したものを提出してください。)
- ・名古屋大学人文学研究科、文学研究科、国際言語文化研究科及び国際開発研究科の博士前期課程(修士課程)修了者または修了見込者は不要です。
- ・氏名変更等により、証明書の記載氏名と現在の氏名が異なる場合、それを証明できる書類を併せて提出してください。

注：中国の大学院にて修士の学位を授与された者は「(3) 修士学位取得（見込）証明書」に関して出願期間の約1ヶ月前（5月中旬）までに必ず手続きしてください。

中国の大学院にて修士の学位を授与された者は、**2019年5月中旬までに**中国政府直轄の財団である「中国教育部学位与研究生教育发展中心（CDGDC）」へ認証書の発行申請をしてください。

提出書類： CDGDC が認証した「認証報告」（各自で A4 判に印刷したもの）。

入学志願票に CDGDC 認証の「验证编码」を記入してください。

締 切： 2019年6月21日（金）午後4時

手続きの詳細は、CDGDC ホームページ (<http://www.cdgdc.edu.cn/>) で確認してください。

- <注意>**
- ・この手続き以外の認証書は受理しません。
 - ・名古屋大学に在籍している大学院研究生、在籍した大学院研究生も CDGDC が認証した「認証報告」を提出してください。

(4) 最終出身大学院の成績証明書

- ・証明書は必ず原本を提出してください。コピーは受付しません。（証明書の原本を提出できない場合は、発行元または公的機関で原本と相違ないことを証明したものを提出してください。）
- ・名古屋大学人文学研究科、文学研究科、国際言語文化研究科及び国際開発研究科の博士前期課程（修士課程）修了者または修了見込者は不要です。
- ・氏名変更等により、証明書の記載氏名と現在の氏名が異なる場合、それを証明できる書類を併せて提出してください。

(5) 修士の学位試験に提出した論文の写し等

- ・以下の①または②を提出してください。

①修士の学位試験に提出した論文の写し	2部
②（修士論文がない場合）修士課程における学修の成果を示す論文（日本語 20,000 字程度または英語 8,000 語程度）の写し	

- ・修士論文以外の研究業績となる論文がある者は、その写しを2部提出してください。

[注] 1) ①～②について、日本語または英語以外の言語を使用している場合及び使用する予定がある場合には、あらかじめ以下の連絡先まで問い合わせてください。

連絡先

名古屋大学 文系教務課内 人文学研究科入試担当

e-mail: hum@adm.nagoya-u.ac.jp

- 2) 提出論文は口述試験の際に返却します。なお、欠席者は2019年9月30日までに文系教務課内 人文学研究科入試担当で受領してください。受領しない場合は当方で処分します。

(6) 博士論文作成計画書

所定の様式をA4判用紙に片面印刷し、できるだけ詳細に記入してください。

(7) 外国語検定試験・日本語能力試験の成績通知書の写し

提出は任意です。

(8) 入学検定料 30,000円

- ・必ず郵便局で30,000円の普通為替を作成し、**記入欄には何も記入せず**提出してください。
- ・名古屋大学大学院博士前期課程の修了見込者は不要です。
- ・国費外国人留学生は入学検定料を必要としません。他大学から受験する国費外国人留学生は、国費外国人留学生であることの証明書を提出してください。
- ・海外在住者は、クレジットカード決済で検定料を納入することができます。出願前に文系教務課内 人文学研究科入試担当 (hum@adm.nagoya-u.ac.jp) まで連絡してください。

(9) 受験票送付用封筒（市販の封筒をご用意ください）

長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に出願者の住所、氏名、郵便番号を明記し、362円分の切手を貼ったものを提出してください。(ただし、日本国内への送付を希望する場合に限り、日本国外への送付を希望する場合や日本の切手が入手できない場合は、国際返信切手券11枚を同封してください。)

(10) 合否通知送付用封筒（市販の封筒をご用意ください）

角形2号(33.2cm×24cm)の封筒に出願者の住所、氏名、郵便番号を明記し、420円分の切手を貼ったものを提出してください。(ただし、日本国内への送付を希望する場合に限り、日本国外への送付を希望する場合や日本の切手が入手できない場合は、国際返信切手券11枚を同封してください。)

(11) (外国人のみ) 住民票の写し（コピー不可・在留資格の記載のあるもの）

- ・日本国内に在住する外国人は、「**在留資格**」、「**在留期間**」、「**在留期間満了日**」が記載された「**個人番号(マイナンバー)の記載のない住民票の写し**（発行日から3ヶ月以内のもの）」を市区町村役場で取得し提出してください。
- ・日本国外に在住する外国人は**パスポートのコピー**を提出してください。
- ・出願書類等には、これらの証明書等に記載された氏名を用いてください。

(12) あて名シート

所定の様式をA4判用紙に片面印刷し、提出してください。

(13) 出願書類チェック表

所定の様式をA4判用紙に片面印刷し、提出してください。

5. 障がいのある者等の出願

障がいのある者等で、受験上の特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、以下によりあらかじめ文系教務課内 人文学研究科入試担当と相談してください。

(1) 相談の時期

2019年5月21日（火）午後4時まで

(2) 相談方法

以下の①及び②を提出してください。①及び②以外に適宜書類を添付してもかまいません。

提出書類	注意事項
①障がい等の状況及び必要とする受験上の配慮を具体的に記載したもの	A4判横書で様式は自由です。
②障がい等に関する医師の診断書	受診日から3ヶ月以内のもの。写しでも可。

(3) 連絡先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町B4-4(700)

名古屋大学 文系教務課内 人文学研究科入試担当

e-mail: hum@adm.nagoya-u.ac.jp

なお、入学後の修学に関して相談の希望がある場合は、出願期間終了日時までにお問い合わせください。

6. 選抜方法

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、出願書類審査及び分野・専門別の口述試験により行います。

(2) 分野・専門別の口述試験

①修士学位論文またはこれに代わるもの及び出身学校の学業成績等に係る試問

②課程博士学位取得候補者に足る資質に係る試問

試験日	時間	試験科目
2019年7月17日（水）	別途指定します。	口述試験

(3) 試験会場

名古屋大学文学部本館（別紙試験場配置図参照）

集合場所については、受験票を郵送する際に通知します。

7. 合格者発表

2019年7月29日(月)午前10時頃(予定)に、文学部本館玄関に掲示発表します。また、人文学研究科ホームページ (<http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/>)にも発表し、追って郵送により本人あて通知します。ただし、掲示および人文学研究科ホームページでの発表は受験生の便宜を図るための速報ですので、郵送される合否結果通知により必ず確認してください。

電話・電子メールなどによる合否の問い合わせには一切応じられません。

8. 入学手続

別途通知します。

9. 入学に要する経費

入 学 料	282,000 円	(予定額)
授 業 料	半期分 267,900 円	(予定額)
	(年 額 535,800 円)	(予定額)

なお、入学時または在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな学生納入金額が適用されます。

〔注〕授業料は、春学期及び秋学期の2期に分けて、春学期分は4月に、秋学期分は10月に納入します。

10. その他

- (1) 既納の入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。また、入学検定料の領収証書については、受験票発送時に同封します。
- (2) 願書受付期間内に出願書類が全て揃わない場合は受理しません。
- (3) 受理済みの出願書類は、いかなる理由があっても一切の修正等を認めません。
- (4) 出願書類に虚偽記載があった場合や必要事項を記載しなかった等の場合は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (5) 試験場へは、試験開始15分前までに到着し係員の指示を受けてください。(試験場の入場開始は別途通知します。)
- (6) 名古屋大学では、構内への車両の入構規制を行っていますので、公共交通機関を利用してください。
- (7) 携帯電話、PHS、スマートフォン、タブレット、ウェアラブル端末等の電子機器を時計代わりに使用することはできません。
- (8) 住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続及び入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うために利用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に使用しません。

分野・専門及びその内容

言語文化系学位プログラム

文芸言語学コース

分野・専門名	内容
言語学	東アジア・東南アジア・中央アジア・ヨーロッパを含む世界の諸言語・個別言語の構造及び機能の精密な観察・分析に基づき、個別言語の特徴、言語間の普遍性と多様性を記述的・理論的観点から明らかにする。また日本語と他言語の対照研究も可能である。
日本語学	多様な日本語資料に基づいて、日本語の歴史・地理・社会的な動態と多様性を言語事実として緻密に観察記述し、その構造的な特質について実証的に追究する。伝統的な日本語学・日本文学研究の蓄積を踏まえつつ、日本語に関わるあらゆる課題に即して最適の方法論と理論的立場を選択する。
日本文学	古代から中世、近世を経て近現代に至る日本文学の諸作品と作家を幅広く研究対象とする。文芸理論と書誌学についての深い理解に基づいた、作品解釈を目指す。
英語学	現代英語及び英語史における言語事実の綿密な観察に基づき、生成文法を中心とする一般言語理論の観点から、英語の共時的研究と通時的研究の有機的な融合を追究することにより、英語及び人間の言語能力の本質に迫ることを目指す。
英米文学	文学批評の歴史と理論を把握して、近代初期から現代にいたる英米文学作品を文献実証的に分析し、そこに見られる時代精神や社会風潮といった言語文化の諸相を解説する。
ドイツ語 ドイツ文学	ドイツ語の言語体系やドイツ語によるテキストを厳密に理解し、分析する力を養いつつ、ドイツ語、ドイツ語圏の文学、文化、芸術を対象にした研究を行う。テキストが生まれた文化的・社会的・歴史的・思想的文脈を視野に入れながら、対象を多面的に捉える研究を目指す。
フランス語 フランス文学 (第1)	中世から現代に至るフランス語圏の文学・思想・文化を、歴史的背景を踏まえながら学び、真に今日的な批評精神を涵養する。フランス語を記述・分析し、一般言語理論や諸学問分野とも関連させて、その言語的特質、生態を探求する。
フランス語 フランス文学 (第2)	16世紀から現代にいたるフランス語圏文学作品を始めとする広義のフランス語テキストを、言語事象に重点をおきつつ分析し、言語文化の諸相を解説する。

分野・専門名	内容
中国語中国文学	古典から現代にいたる中国語の文献を精密に読み解き，理論的・実証的に分析することを基礎とする。その上で，中国文学研究においては，さらに作品表現の背景を解明することを目指す。また，中国語学研究においては，共時的研究や通時的研究を通して中国語を多角的・体系的に把握し，中国語のありようを解明することを目指す。
日本語教育学	教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追究する。また，様々な日本語教授法の背景をなす理論，日本語習得に関わる種々の要因を検討し，理論面，実践面から日本語教育のあり方を追究していく。
英語教育学	英語教育学・第二言語習得論・心理言語学に関わる理論と研究方法を学ぶことで，外国語（第二言語）としての英語の習得及び教育についての知識と理解を深める。
応用日本語学	日本語学・日本語教育方法論・日本文化論の体系的な知識を身に付け，各分野の専門的な研究を行うとともに，日本語教育へ応用する力，日本語教育を実践する力を身に付ける。

哲学倫理学コース

分野・専門名	内容
哲学	古代ギリシアから現代にいたる哲学の歴史，及びそれに立脚した哲学理論を，西洋を中心にしつつ日本の思想・哲学をも含め，形而上学，自然科学，認識，論理，言語，倫理，宗教，政治，人類学等々の各分野にわたる原典読解や二次文献・研究文献の読解を通して，総合的に理解する。
西洋古典学	西洋古典文学，西洋古典語学，ギリシア・ローマ神話学，ギリシア・ローマ宗教学。古典古代の個々のテキストの正確な読解を通して，古代ギリシア・ローマの文化と社会の正しく深い理解を追究し，西洋文明や人間の本質を考える。
中国哲学	漢語原典の正確な読解を踏まえた上で，中国本土ならびに近隣の東アジア漢字文化圏の学術思想・宗教・精神文化を対象にした，研究と教育を目指す。
インド哲学	インド亜大陸における学術思想・宗教・文学・伝統文法学などの原典を広く分析することにより，アジアの基層文化を探求すると同時に人間の本質の理解をもめざす。

歴史文化系学位プログラム

歴史学・人類学コース

分野・専門名	内容
日本史学	古代～近現代史にいたる、日本史上のさまざまな課題について、文献史料に基づいて実証的に分析し、過去の人間の営みを解明することを目指す。史料の調査にあたり、フィールドワークを重視する。
東洋史学	アジア諸地域の歴史を対象とし、現地言語をはじめとする外国語文献を十分に利用しつつ、実証的な研究を進め、多様なアジア世界の諸相につき、より正確な理解を目指す。
西洋史学	古代～近現代にいたる、西洋史上のさまざまな課題について、伝統的な歴史学の方法論を基礎としながらも、文書史料だけではなく表象や記憶、物質文化などに関わる多様な史資料を分析・総合することで、西洋世界の重層的な歴史を読み解くことを目指す。
美学美術史学	日本・東洋・西洋の美術作品を、方法論を踏まえて実証的に分析し、美術の歴史を体系的に構築する。また、美術作品を起点としつつ、人間が生み出した視覚文化の諸相について歴史的意義を明らかにする。
考古学	遺跡・遺物の実証的研究に基づき社会や文化を解明し、人類史の再構成を目指す。遺跡を発掘し、出土した遺物を分析して考古学的事実を正確に把握するとともに、それらを深く掘り下げて新しい歴史像を再構築する。
文化人類学	日本及び世界の多様な社会と文化、思想をフィールドワークと民族誌、資史料にもとづいて精緻に理解するとともに、文化人類学の歴史と理論をふまえ、人類史的な比較の視点から人間の本質の解明を目指す。

総合文化学コース

分野・専門名	内容
映像学	映像の生産、流通、上映、表象、受容に関わる多様な側面を、歴史的・社会的・政治的・経済的・文化的・テクノロジー的・エコロジー的文脈を視野に入れながら、実証的・理論的に研究する。
日本文化学	文化・文学・批評に関する理論を把握したうえで、地域や学問領域をまたいで多角的に日本文化を捉え直す。とりわけ東アジア地域の関係性の中において、古代から近現代に至る日本文化の姿を捉え直す。
文化動態学	越境、移動、再編など動態的過程にある移民やマイノリティなどに関する領域横断・複合型の教育と研究を目指す。超領域的・多角的なアプローチにより、超国家的なシステムとグローバリゼーションがもたらす社会や文化の変動・変容を分析する。

分野・専門名	内容
ジェンダー学	フェミニズム, ジェンダー, セクシュアリティに関する研究を基盤として, 文学, 思想, 文化, メディア, 経済, 社会における事象と表象を学際的に検証する。それを通じて, 社会の既成概念にとらわれない人材の育成と研究成果の社会的還元を目指す。

指導可能領域

言語文化系学位プログラム

文芸言語学コース

分野・専門名	内容
言語学	音声学, 音韻論, 形態論, 統語論, 意味論, 語用論, 言語類型論, 歴史言語学, 社会言語学, 対照言語学 (例: 日韓・日中・日英語の対照), 認知・機能言語学, フィールド言語学, 文法化研究, 言語接触研究。なお, 特定の個別言語 (例: 日本語, 朝鮮韓国語, トルコ語, フィンランド語) の研究であっても複数の言語を対象とした研究であっても可。
日本語学	日本語学及び日本語史の諸領域 (音声学, 音韻論, 形態論, 統語論, 意味論, 語用論, 文字・表記, 文章・文体), 日本語学史, 日本語資料論
日本文学	古代から中世, 近世に至る古典文学の諸作品及び作家についての研究。特に王朝物語, 近世小説, 和歌, 俳諧など。書誌学及び出版文化史。古典文学や書物文化研究をふまえた近現代文学研究。
英語学	英語学の諸領域 (統語論, 意味論, 音韻論, 形態論, 語用論, 書記体系論, 英語史), 生成文法, 概念意味論, 認知意味論, 歴史言語学, 日英対照言語学, コーパス研究
英米文学	英語圏文学, イギリス小説, 英詩, シェイクスピアを含むイギリス演劇, イギリス社会史・文化史, 英米児童文学, アメリカ小説, アメリカ詩, アメリカ演劇, アメリカ文化史, 文学批評理論, トランスレーション・スタディーズ
ドイツ語 ドイツ文学	ドイツ語文学, ドイツ語学, ドイツ語詩, 物語論, スイス戦後文学, フロイト研究, 文学と舞踊, 舞踊史, 身体文化研究, 世紀転換期の芸術, 記憶論, 翻訳論, 文学批評理論
フランス語 フランス文学 (第1)	フランス文学史, フランス語圏の詩・小説・演劇, フランス文化史, フランス批評理論, フランス近・現代思想, 比較文学, 比較思想, フランス語学の諸領域 (統語論, 意味論, 音韻論, 形態論, 語彙論, 語用論, フランス語史), コーパス言語学, 日仏対照言語学, フランス語教授法 (2018年度時点での現状です。年度末に2名の教員が退職し, 2019年度からは, 新たに日本人とフランス語ネイティブの教員が加わります。出願前に文系教務課内 人文学研究科入試担当までお問い合わせください。)
フランス語 フランス文学 (第2)	フランス語圏文学, 16世紀～現代の小説・詩・戯曲, 文学と美術批評, 文学と芸術 (美術, 音楽, 映画), 文学と宗教, 比較文学, フランス文化史, フランス語研究, 文体論, テキスト言語学, テキスト理論, テキスト生成研究

分野・専門名	内容
中国語中国文学	現代中国語学，中国古典語学，中国語教育，日中対照言語学，中国古典文学（文言，白話），日中比較文学，日本漢文学
日本語教育学	日本語教授法，外国語教授法，日本語習得研究，談話分析・会話分析，言語の認知処理，テスト理論と因果関係分析，現代日本語の意味・文法研究，日本語の誤用分析，日本語と他言語の対照研究，日本語の語彙・文法教育，コーパス研究，心理言語学
英語教育学	英語教育学・第二言語習得論の諸領域（英語教授法，英語教材論，英語コミュニケーション論，第二言語習得論，英語教育工学，言語教育科学，言語評価論）および心理言語学・バイリンガリズム・批判的言説分析
応用日本語学	(1) 日本語学及び関連領域：文法論（記述文法，認知文法，日本語教育のための文法研究），語彙論（共時的研究，通時的研究），意味論（意味論一般，認知意味論），日韓対照研究 (2) 日本語教育方法論及び関連領域：日本語教育教材論，第二言語運用論，接触場面の研究，談話分析，コンピュータ支援教育方法論，日本語 CALL 教材開発，言語運用に対する評価，学習ストラテジー論，自己調整学習 (3) 日本文化論及び関連領域：文化人類学・民俗学，日韓比較文化論，在日朝鮮人文学

哲学倫理学コース

分野・専門名	内容
哲学	哲学・哲学史と倫理学・倫理学史の全領域。具体的には，古代ギリシア哲学，中世哲学，近世哲学（英・独・仏），現代哲学（英米・独・仏），現象学，日本哲学・思想史，形而上学，科学哲学，認識論，認知哲学，こころの哲学，言語哲学，論理学，メタ倫理学，応用倫理学（医学倫理，工学倫理等），政治哲学など。
西洋古典学	ギリシア・ローマの叙事詩，悲劇，喜劇，抒情詩，散文，神話，宗教。古典ギリシア語，古典ラテン語
中国哲学	儒学，経学，諸子百家，漢唐訓詁学，朱子学，尚書学，清朝考証学，日本漢学
インド哲学	インド言語哲学，インド論理学，六派哲学，インド仏教，パーニニ文法学，サンスクリット文学

歴史文化系学位プログラム

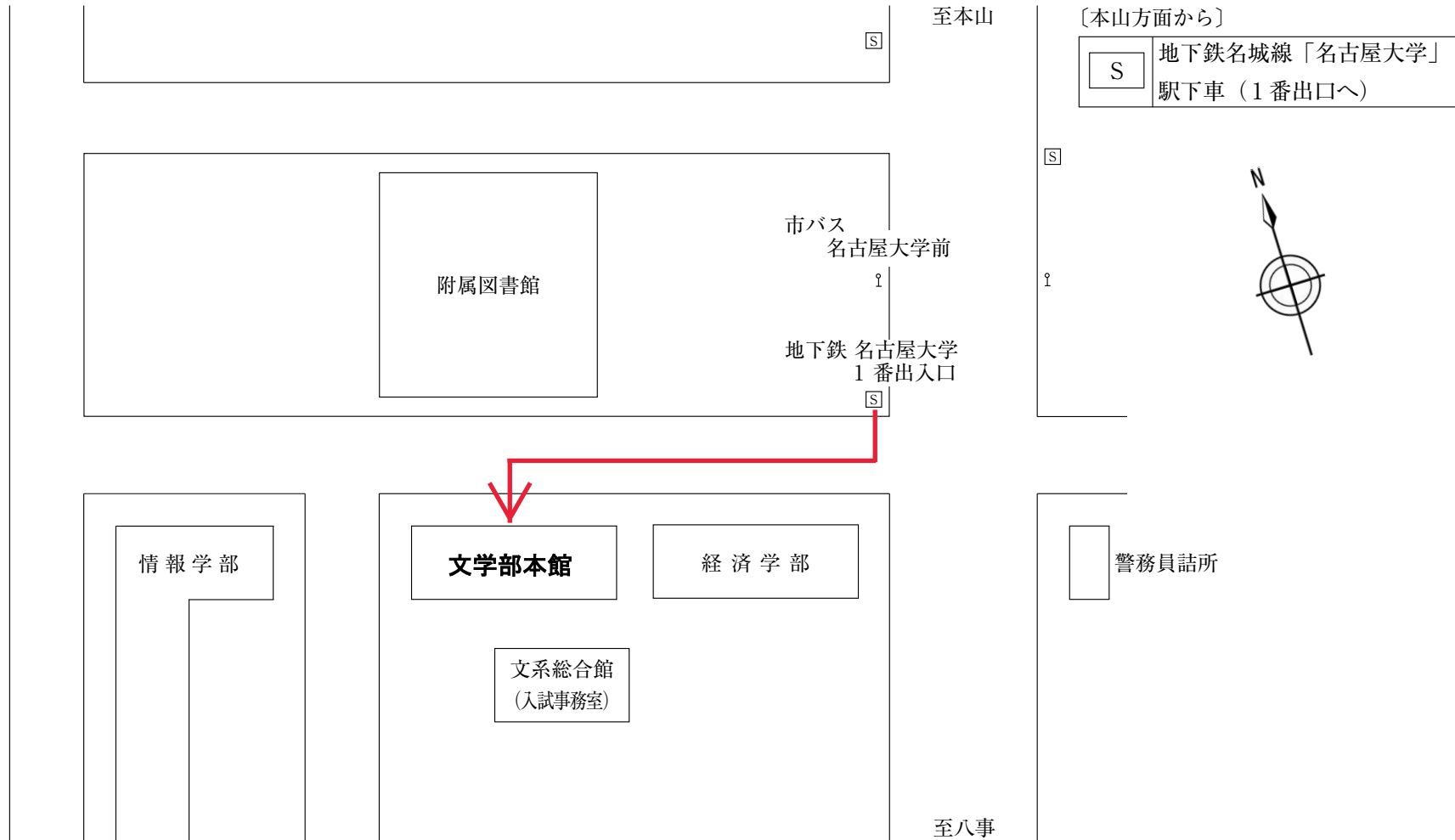
歴史学・人類学コース

分野・専門名	内容
日本史学	古代史・中世史・近世史・近現代史
東洋史学	日本を除くアジア諸地域に関する歴史的視点にもとづく研究，特に中国古代史・中世史・近世史・近現代史及び中国民族史，東南アジア史など。
西洋史学	古代地中海文明史，ヨーロッパ中世史，ヨーロッパ近現代史，アメリカ史，比較史，文化交流史
美学美術史学	西洋美術史，日本美術史，東洋美術史（特に中国絵画史を中心とする）
考古学	先史考古学，歴史考古学，日本考古学，北中米考古学
文化人類学	文化人類学の諸領域（文化人類学，社会人類学，宗教人類学，芸術人類学，構造人類学，医療人類学，観光人類学，開発人類学，応用人類学，人類学史），物質文化研究，民族芸術学，アフリカ民族学，東南アジア民族学，民俗学，民俗芸能研究，日本芸能史，日本思想史，宗教テキスト研究，宗教学，アーカイヴス研究

総合文化学コース

分野・専門名	内容
映像学	映像批評理論，映画史，各国・地域映画（とくに東アジア映画），初期映画，越境映画，合作映画，インディペンダント映画，映像文化（ジェンダー，エスニシティ，モダニティ，記憶，エコロジーなど），ジャンル（ドキュメンタリー，アニメーションを含む），作家，演技，スター，映画祭，観客，メディア産業，検閲，プロパガンダ，トランスメディア，デジタル映像，映像アーカイヴ，映像教育，テレビ，写真
日本文化学	日本近現代文化論，日本近現代文学論，アジアの中の日本文化論，文化受容論，表象文化論，比較文学文化論，詩論，文学理論，批評理論
文化動態学	社会学，比較文化史，マイノリティ研究，移民研究，ディアスポラ論，国際社会学，音楽社会学，ポピュラーカルチャー論，ナショナリズム／トランスナショナリズム研究，日系人研究，ヨーロッパ地域研究，中国地域研究，ラテンアメリカ地域研究，スペイン語とポルトガル語の比較研究，スペイン語研究，比較文学
ジェンダー学	フェミニスト批評・理論，クィア批評・理論，アメリカ文学，中国・台湾文学，中国・台湾女性史，台湾映画，中国近現代舞踊史，ポピュラーカルチャー，サブカルチャー，（文化）記号論，メディア文化論（広告・女性誌），コノテーション論，映像・視覚文化，インターネット社会論，メディア・コミュニケーション論，メディア社会心理学，若者論，スポーツ，経済，労働，社会政策・制度，フェミニスト経済学

名古屋大学大学院人文学研究科 試験場配置図



出願資格の事前審査について

◇出願資格（6）により出願する者の個別審査について

1. 個別審査

出願資格（6）により出願する者は、次の書類を**2019年5月21日（火）までに**、文系教務課内 人文学研究科入試担当へ提出または郵送し（書留で封筒の表に「出願資格（6）の個別審査」と朱書）、出願資格の有無について個別審査を受けてください。

① 出願資格審査願 [様式 2]

② 出願を希望する専攻・専門に関して [様式 3]

③ 大学等の卒業等以後の学歴を証明する書類

（卒業証明書、退学証明書、在学期間証明書等のうちいずれか）

④ ③における成績証明書

⑤ 返信用封筒（住所、氏名を明記した長形 3 号（12cm×23cm）のもの（82 円切手貼付））

提出書類に基づいて、個別審査を実施し、その結果を2019年6月10日（月）までに本人宛通知します。

2. 個別審査の結果、「出願資格有」と判定された者の出願手続等

「出願資格有」と判定された者は、出願書類を受付期間内に提出してください。

なお、個別審査の結果の通知から出願までの期間が短いので、出願書類は事前に準備しておいてください。

3. 連絡先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-4(700)

名古屋大学 文系教務課内 人文学研究科入試担当

e-mail: hum@adm.nagoya-u.ac.jp

※ 募集要項に記載されている「出願資格」の(6)で出願しようとする者のみ、文系教務課内
人文学研究科入試担当あてに2019年5月21日(火)必着で提出してください。

出 願 資 格 審 査 願

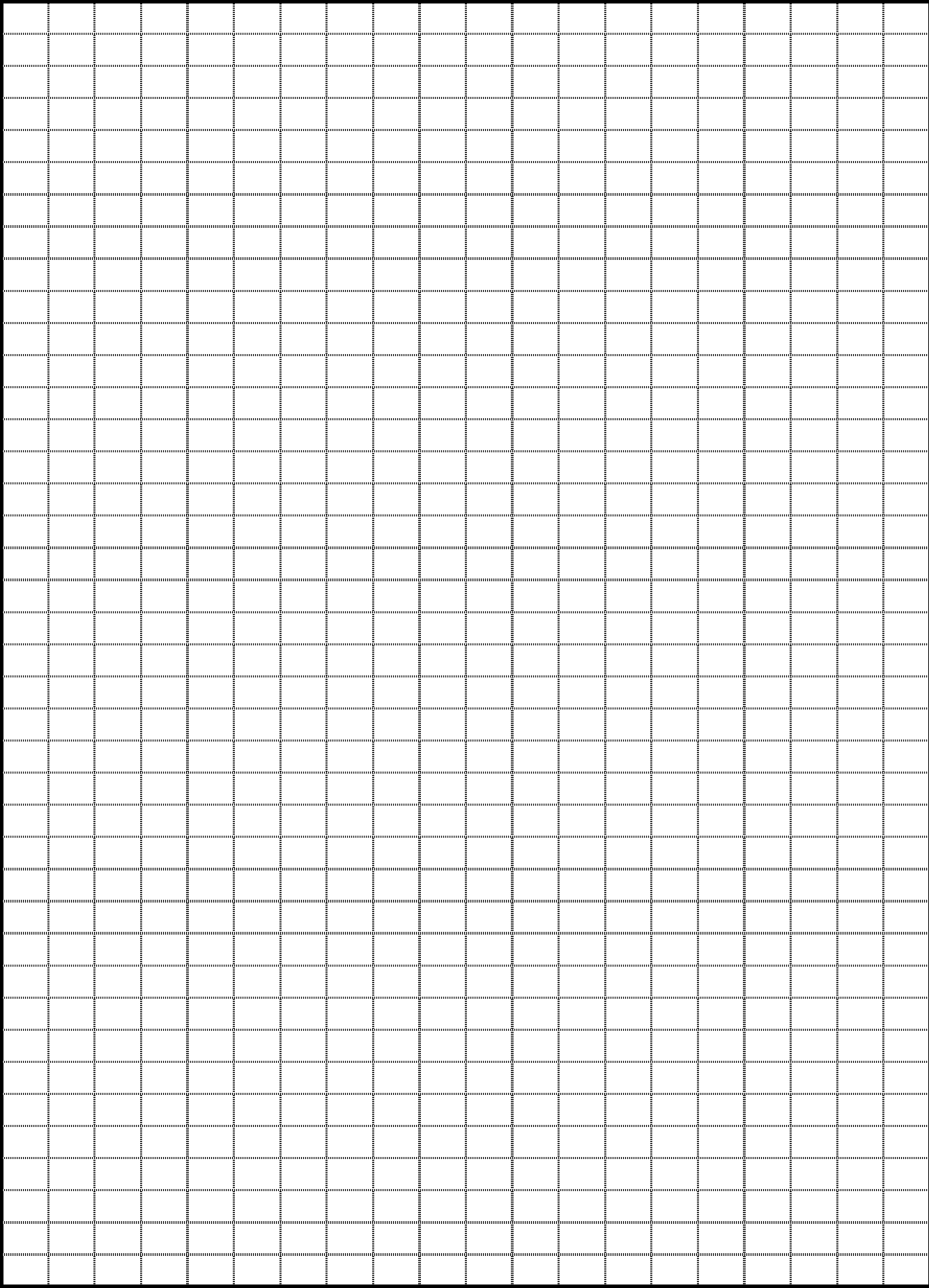
- ひらがな
1. 氏 名 (男 ・ 女)
2. 生年月日 年 月 日生(満 歳)
3. 連絡先(現住所)
(〒 -)
-
携帯 - - 自宅() -
4. 国籍・在留資格(外国人の場合のみ)
5. 学歴及び現在の身分
 <学歴>
 年 月 小学校入学
 年 月 小学校卒業 (年間)
 年 月 中学校入学
 年 月 中学校卒業 (年間)
 年 月 高等学校入学
 年 月 高等学校卒業 (年間)
 年 月
 年 月 (年間)
 年 月
 年 月 (年間)
 <現在の身分>()
6. 出願予定の分野・専門名
.....

※フランス語フランス文学については、第1, 第2の別についても記載してください。

次ページ[様式3]に、あなたが出願を希望する分野・専門に関して、これまでに学習したこと、これから研究したいテーマを800字以内で書いてください。(Word等により作成した文書を印刷し、[様式3]に切り貼りすることもできます。)

氏名	
----	--

[出願資格審査願用]

																			
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2019年4月発行

名古屋大学文系教務課内人文学研究科 入試担当

〒464-8601 名古屋市千種区不老町B4-4(700)

e-mail: hum@adm.nagoya-u.ac.jp

(メールでの出願はできません。)